

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
92	川崎市立南菅小学校	宮原 千恵子

学校教育目標	今年度の重点目標(めざす子ども像)
心身ともにすこやかで、思いやりがあり、 調和のとれた児童の育成 ～心が通い合う 子どもたちをめざして～	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学びよく考える子(確かな学力)・・・学習プロジェクト ○自他を大切に、認め合い協力する子(豊かな心)・・・ハートフルプロジェクト ○心身ともに健康でたくましい子(健やかな体)・・・元気プロジェクト ○未来を創造し豊かに生きる子(生きる力)・・・ハートフルプロジェクトを中心とした3プロジェクト

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
主体的に学びよく考える子・確かな学力・学習プロ	1 主体的・対話的で深い学びを目指した学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートでは、興味を持ったことを調べたり、自分の力に合わせて内容や量が選んでいるとの回答が9割程で、個に適した学びの実現ができていと考えられる。一方、保護者の回答では6割だった。 ・校内研究の振り返りから、見通しを持った学びができるようになってきたという意見が多かった。粘り強く学びに取り組むという視点を継続していく必要がある。 ・GIGA端末は、個の学びを広げるツールとして活用され、平時の持ち帰りや授業以外での活用も広がっている。今後、協働的な学びの場面でも活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けて、保護者との共通理解を図る必要がある。折々で伝えていきたい。 ・課題解決型の学習、粘り強く学びに向かう姿の実現に向け、校内研究等で、指導改善に努める。 ・深い学びを目指し、教師も児童も目的やねらいを確認しながら、対話を大切に授業展開を目指す。 ・児童は、端末の活用が身につけてきている。モラル教育も含めて教員の研修によるスキルアップを図り、有効な活用について情報共有を行っていく。 	
	2 基礎・基本の定着と応用力・自己調整力を培う指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールや家庭学習への継続的な取り組み ・学習ルールの徹底した指導(南菅小学校のきまり) ・外国につながる児童の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者のアンケート結果から、学習に取り組む姿勢についての意識が高評価であった。保護者の協力も得ながら、教員が学習ルールについて共通理解を図り、指導を継続することにより、児童の学習態度が身につけてきていると考える。 ・外国につながる児童の支援は教職員で共有するとともに初期支援や国際教室での個別支援に取り組み、日本語の定着を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習学習を意識した学習の場を充実させ、活用できる力や応用力を身につけさせたい。また、端末を活用した多様な学習方法を探り、児童の意欲、能力の向上に向けて取り組んでいきたい。 ・学級の雰囲気や友人関係を大切に、集団で学ぶ良さを感じるとともに、自己の振り返りから「できた」「わかった」という満足感や成果と課題を明確にし、学びをつなげていく。
	3 多様で豊かな体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた体験的な学習 ・科学実験教室・馬頭琴鑑賞・車椅子体験 ・栽培活動・コーディネーション運動 ・ガサガサ体験・歌唱指導・田植え稲刈り ・認知症サポーター体験・いのちの学習 ・多文化共生ふれあい事業・里山体験・昔遊び ・環境、子どもの権利等に関わる授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートより多様で豊かな体験活動の充実を図ってきたことが、学習意欲を高めることにつながっていることがわかった。しかし、児童と保護者の感じ方が若干異なっていることもわかった。 ・体験のみで終わらないよう、学習をマネジメントする教員の力が必要であること、また、打ち合わせや準備等に時間がかかることやそのための時間の確保が課題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡る外部講師による授業は本校の特色ある教育活動の一環である。これからも体験的な活動を重視し、児童にとって魅力ある授業になるように更なる連携を図りながら意図的、計画的に推進していく。 ・年度初めの確認と引継ぎ、つきたい力を明確にした単元構想をたて、子どもたちの思いを大切に、見通しをもった実践を進める。
豊かな心・自他を	4 認め合い、支え合う気持ちの育成 共生*共育・人権尊重の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育プログラムの授業実践や研修 ・効果測定アンケートによる学級づくりの検証と改善 ・SOSの出し方・受け止め方教育 ・「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の日常的な実践 ・児童会主催による自主的活動の充実(いいとこみつけ・南菅ノーベル賞他) 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果測定を実施し、学級の間人間関係を把握し、検証を共有することにより指導の改善に努めることができた。 ・「ふわふわ言葉」の定着と「チクチク言葉」の防止を図るために指導を行うとともに、運営委員会児童がが中心となりキャンペーン活動を展開した。「全国いじめ問題子供サミット」でも発表することができた。 ・児童アンケートより「自分も友達も気持ちよく過ごせるよう心がけている」との回答が95%と高かった。具体的な取り組みの成果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育プログラムとSOSの出し方・受け止め方教育の推進を継続していく。 ・効果測定を引き続き実施して、全教職員で児童のより良い関係を構築していく。 ・運営委員会中心のキャンペーンの工夫 ・思いやる心を大切にする指導の継続と具体的な行動の価値づけを行う。 ・自分から話せない児童への配慮と意識づけを行う。

大切に し認め 合い協 力する 子・ハ ートプ ロ	5	<p>規範意識の高揚と道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまり、社会のルール、言葉遣いの指導 ・「南菅小のきまり」の家庭配付と教室掲示 ・生活目標の自主的な実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標について代表児童が朝会で話したり、運営委員が生活目標の振り返りを各学級で話し合える工夫をしたりして、児童による自発的な取り組みを継続している。進んで挨拶をする児童も増えてきた。 ・ルールやマナーを守れているとの回答は、児童、保護者共に9割を超えた。道徳の学習指導とともに、家庭の意識も高いことがうかがえる。児童運営委員会からGIGA端末のルールについて「GIGA宣言」が出されたことも成果の一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な行動を促すための運営委員会を中心とした様々な取り組みの実践と振り返り。 ・学校のきまりの更新と全教職員・家庭との連携。その意味や価値について理解して取り組むような継続指導。 ・ヒヤリハットを共有し、具体的な指導を行う。自分たちで生活を見直していこうとする意識をもたせ、実践力を育てる。 ・児童運営委員会等の主体的な行動を尊重していく。
	6	<p>きめ細やかな児童理解・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活ふり回りカード」による児童一人一人の見とり(毎日) ・「学校生活アンケート」によるいじめの早期発見と対応 ・職員会議での児童理解 ・問題行動やトラブルの早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活ふり回りカード」では、児童自身が生活を振り返ると共に、困っている児童の早期発見にもつながった。 ・「学校生活アンケート」を年2回実施した。教職員の児童理解やトラブルの早期発見にも役立っていた。 ・小規模校の良さを生かし、トラブルに対して早期に対応できた。当該学年や担任とCOで情報を共有し、児童指導にあたることのできた。 ・専科担当の学習指導や教室に入れない児童の支援など全教職員が協力して対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートより「ふり回りカード」の相談活用が十分でない、保護者アンケートより相談しやすいと感じていないが2割強いことが分かった。様式の変更や相談することの意義と相談体制を児童や保護者に知らせ、COやスクールカウンセラーとともに児童や保護者の困り感を受け止めていく。 ・教職員の報告・連絡・相談の徹底を行い、COを中心とした児童支援体制を構築していく。
心身ともに健康でたくましい子・健やかな体・元氣プロ	7	<p>運動に親しむ態度の育成</p> <p>児童が主体的に取り組む運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専科担当による体育学習 ・体力テストの実施とデータ分析 ・専門家による特別授業の実施(コーディネーション運動) ・休み時間を利用した運動委員会による「GOGOチャレンジスポーツタイム」(通称、GOチャレ) ・自分たちでつくりあげる運動会(児童とともに企画・検討・実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を意識し、ポイントを押さえた指導や目標を明確にした指導の工夫により、児童アンケートでは体育学習を通して、運動が好きになった、いろいろな運動ができるようになったとの回答が高くなった。 ・コーディネーション運動の専門家による指導を取り入れ、体育学習の充実も図った。 ・運動委員会の取り組み「GOチャレ」では、学年問わず、運動やゲームを楽しむ児童の姿が見られた。 ・運動会では、児童の主体性を大切に発達段階を考慮し話し合っ種目やルール、総合得点ありを決めた。児童・保護者両方のアンケート結果から積極的に参加することができたとの回答が9割を超えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育専科を中心として運動の楽しさを実感できる学習、新体力テストの結果を意識した学習指導を目指していく。目標をもって体力づくりに取り組む指導も行っていく。 ・学校での取り組みを保護者に伝え、家庭でも運動に親しむ機会を意識していただく。 ・GOチャレなどの運動委員会の活動や学校での取り組みを保護者にも伝え、家庭でも運動に親しむ機会を意識し協力していただく。 ・運動会については、児童の主体性を生かせるよう今年度の取り組みを継続するとともに、秋開催とし、目標を明確にした話し合いを進められるよう教員の意思疎通をしっかりと行う。
	8	<p>防災・安全指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害を想定した避難訓練の充実(地震、火災、豪雨、土砂災害) ・防犯・安全教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練の意義、振り返りを充実させたことにより、児童のアンケート結果では、災害時等の対応についてよくわかっているが9割を超えていた。多様な訓練を実施し、状況に応じた避難経路や避難の約束を指導したり、二次避難場所への訓練も行った成果と言える。一方、保護者の結果は8割を切っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での取り組みの周知し、家庭でも話す機会を設けていただき、学校、家庭、地域と協力して防災や防犯について意識向上を図っていく。 ・実践に役立つ訓練となるよう意識付けを行い、児童の避難に対する意識を高め、安全に避難する力を身につける。
	9	<p>健康・食に関する意識の向上と実践の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や学校栄養職員の授業参加 ・委員会(児童)からの発信 ・南菅小のきまりの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止や安全確保のために体育の学習や休み時間の指導について、若手教員の支援と全体での共通理解を行った。 ・健康委員会の活動として、ポスターの制作、休み時間後の手洗いの呼びかけや給食時の献立紹介など、毎日行うことを通して各自の健康に対する意識を高めた。 ・児童、保護者アンケートから、睡眠・食事等の生活のリズムについての意識が高いことがわかった。 ・食への意欲を高めるため、新献立の際には委員会児童が呼びかけ、事後アンケートを行い、結果報告を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や健康委員会の活動の成果を評価し、取り組みを継続していく。 ・保健だよりや給食だよりで保護者へ知らせ、協力を得ながら進めていく。 ・養護教諭や学校栄養職員の授業参加や健康委員会による実践により意識の向上を図る。(手洗いの推奨も含めて) ・給食については、8割の児童が好き嫌いせず食べようとする意識はあるが、実際の残量は少なくない。特に始めて見る食材についての苦手意識が感じられる。取り組みを継続していく。

未来を創造し豊かに生きる	10	<p>自尊心や関わる力の育成</p> <p>未来を創造する力の育成</p> <p>地域への愛着心の育成</p> <p>キャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「よいこと」を進んで行い認め合う心の育成 ・自分の目標をたてる力、実践する力、自分を見つめる力の育成 ・生きる力の礎を築くキャリア在り方生き方教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところあまり言えないと答えた児童も一定数いたが、保護者の回答ではお子さんのよいところを言えるが97%という結果だった。児童の意欲や自己肯定感を高めるためにも保護者と学校が協力して児童に実感させていく必要がある。 ・児童・保護者アンケートの結果から、学校行事や学校生活において自己の役割に全力で取り組んだとの回答が9割を超えた。児童が目標を立て、どのように取り組んでいくのかを考え、そして振り返る時間を設けた成果である。 ・児童アンケートの結果から、地域の良さを感じている児童が増えてきていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長を実感できるよう指導の工夫・改善をしていく。振り返りには、困ったことも頑張ったことも書けるようにカードの改良を行い、相談窓口の周知を行う。 ・児童が主体的に取り組む機会を設け、思いやりの心を言葉や態度で示すことの大切さを各教科、学校生活などで指導し、認め合いを価値づけ、自己有用感につなげていく。 ・キャリアノートを有効的に活用していく。 ・創立40周年の取り組みが始まっている。児童と保護者、地域の思いを調整、融合させ、地域への感謝の気持ちや将来を視野に入れた活動を大切に取り組みを進めて行く。
		<p>教職員の在り方と働き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導 ・児童支援 ・適切な勤務時間管理 ・オンライン化と端末の有効活用 ・研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートから児童の個に適した学びと協働的な学びを意識して指導していることが分かった。また、認め合いや気持ちの良い学校生活、運動会への取り組みに対する意識が高かく、児童・保護者アンケートの結果にも現れていた。 ・管理職が時間を意識する声かけを行うと共に時間外に勤務を要する際には適切な勤務時間変更を行った。 ・お知らせやアンケートのオンライン化により業務の効率化とコストの削減に貢献できた。 ・GIGA端末の有効活用により指導の充実を図るとともに業務の効率化とペーパーレス化を図ることもできた。 ・勤務規律、教師力と同僚性の向上等を目指し、様々な研修を実施した。各自の力の向上と意識改革につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対する意欲は高い。学習指導と児童支援の向上を図るとともに、教職員も達成感や満足感を感じられるよう協働していきたい。 ・小規模校のため一人の仕事量が多いと感じる。また、働き方には、個々の考え方もある。生活と仕事のバランスを考える声かけや勤務管理を継続していきたい。 ・オンラインの活用による効率化、端末の活用による会議や打ち合わせの効率化やペーパーレス化によるコスト削減をさらに推進していきたい。 ・教職員間での学び合いや協力体制を継続し、来年度も求められる学校の姿の実現に向けて、教職員をつなげていきたい。
教職員	11				

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○挨拶をしたり主体的に発表したりする姿を具体的にほめていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会の運営や司会、発表時の姿が立派であること ・低学年の子の挨拶もしっかりできていることなど <p>○GIGA端末の持ち帰りの際の、「重さ」が話題になったが、端末を持ち帰る際には、教科書 やノート等を置いて帰る対応を学年に応じて行っていることを説明した。</p> <p>○GIGA端末の活用が進んでいる。体験活動と両方の活動に取り組んでいる点を評価していただいた。</p> <p>○子どもたちと保護者のアンケートでは、同じ内容でも子どもたちの意識が高い傾向にある。学校の教育に関心をもち、家庭でも子どもの話を聞き、話題にできるとよい。</p> <p>○学校教育だけに頼るのではなく、家庭や地域でできることもあるのではないかと。</p> <p>○実際の災害の時に、活用できる力を身につける必要性を感じている。体験できるとよい。</p> <p>○子どもたちの意見を取り入れた運動会が良かった。一方で勝敗がわかりにくかった競技もあった。</p> <p>○体力の低下が気になる。様々な取り組みを続けてほしい。</p> <p>○思いを言えない子への対応を継続しながら、振り返りカードの記入やチェックは無理のないように進めて欲しい。</p> <p>○いじめ防止の取り組み・「全国いじめ問題子共サミット」への参加報告より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉に積極的に取り組んだのが良かった。よいことに取り組んだ方が前向きになれる。 ・素晴らしい取り組み、6つの取り組みの内容を詳しく知りたい。ポスターや標語づくりもやってみたい。 <p>○「委員会活動への取り組みと報告」より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生が最高学年として下級生を引っ張っていることがよく分かった。全校児童を参加させているところもとても良い。立派な6年生の取り組みを引き継いでもらいたい。 ・成果と課題を見つけれられたところが素晴らしい。「忘れてしまう」という課題を解決できる工夫があると嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南菅小学校では、児童の実態を把握し指導の充実をめざし、校務分掌にプロジェクト制を導入している。組織的な学校運営、安定した教育実践をする上で効果を発揮できたと考える。教職員の負担軽減と小規模校による校務の効率化も含めて取り組みを整理し、目標を明確にしたプロジェクトを有効に機能させていきたい。 ・今年度から学校運営協議会制度を導入した。年度末の学校運営協議会では、委員の方々に子どもたちの日常の様子や学校での学ぶ姿勢をたくさん褒めていただいた。また学校教育目標の実現に向けて、教職員の意欲もアンケートから感じる事ができた。来年度も共通理解を図りながら、組織的、計画的に学校教育を進めていきたい。 ・運動会をはじめとした、子どもたちが主体的に取り組んでいる行事や活動、学習を認めていただくことができた。来年度も取り組んで行く。 ・体力不足や実体験の重要性が課題となった。学校でできること、保護者や地域と協力していくことを整理し、来年度につなげていきたい。 ・校内研究や副読本づくりで、教員が地域素材や地域の方を知ることができた。創立40周年のキャラクター募集の際には地域の良さや特徴に視点を当て、自然のよさに目を向けている児童が多かった。、来年度の創立40周年に向けて、今まで学校にかかわっていただいた方に感謝することや故郷を愛し生きる力の礎とすることを目的とし、継続した取り組みを行いたい。同時に、自己有用感を感じ、目標と見通しをもって粘り強く学ぶことができる児童の育成を目指したい。 ・学校Web等での情報発信やアンケートのとり方等、オンライン化に向けてさらに取り組んで行きたい。